

科 目 名
哲学的人間観 What is Man ?

1年 後期 2単位 選択

広 川 明

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), (2), 3-(3)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準 1 の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
A	—	建築総合コース	選択	22.5時間
	A 1	建築計画コース		
	a	建築構造コース		

【概 要】

人生にはめぐりあわせというものがあり、これは人間の力ではどうすることもできない。あとで考えてみれば、あの時の不運な出来事をきっかけとして、自分の人生は予想もしない方向へ進んでしまったということもあろう。めぐりあわせ（運命）は、幸不幸を左右する力をもつものである。

ただそのような中にあっても、何に価値を見だし、どのように生きるかはわれわれの自由である。意味ある生を選びとることは各人にゆだねられた課題であるといえよう。

この授業では、運命と生きがい（生きる意味）の二つをテーマとしたい。前半で運命と幸福のかかわりを論じ、後半では生きがいの問題をあつかうこととする。

【到達度目標】

自分の生き方（またその意味や価値）について自覚的に問い直す態度を身につけること。

【授業計画】

- ① 偶然と必然：運命の二つの意味
- ② 運命と幸福
- ③ 運命論：人生は必然の定めの下にある
- ④ 運命に対する三つの態度：忍従、闘争、運命愛
- ⑤ 決定論と運命：運命は存在するか
- ⑥ 運命を超えて生きる
- ⑦ 運命と生きがい
- ⑧ ハンセン病療養所から：生きがいの重要性
- ⑨ 未来への希望と意味の実感
- ⑩ ものをもちこと（所有）は人を幸福にするか
- ⑪ 所有と自己実現
- ⑫ 自己実現への道
- ⑬ 生きがいの喪失
- ⑭ あたらしい生きがいを求めて
- ⑮ 総 括

【授業方法】

通常の講義のほかに、授業中に小レポート（数回）を実施する。また、授業計画に応じたビデオを視聴する予定である。

【授業到達度の評価】

- 1) 授業中（あるいは授業終了後）に時間を設けて質問を受ける。質問がない場合は、教員より学生に質問して、單元ごとに理解度を確認する。
- 2) 授業が数回進んだところでアンケートをとり、理解度や授業の難易度をチェックする。また、分からない点なども指摘してもらう。

【評価方法】

授業中に実施する小レポート（25%）、定期試験（75%）により総合的に評価する。

【教 材】

教科書：使用しない。その代わり、試験に十分対応できるようにくわしく板書する。

参考書：神谷美恵子『生きがいについて』（みすず書房）

E.フロム『生きるということ』（佐野哲郎訳、紀伊國屋書店）

他の参考書は授業中に紹介する。